令和５年２月９日

東北新幹線いわて沼宮内駅利用促進調査報告書（概要版）

名城大学経済学部
山本ゼミ

１．調査の目的と方針

東北新幹線いわて沼宮内駅は岩手県岩手町の中心駅であるが、利用者数（乗車人数）は１日平均 80 人程度（新型コロナウイルス感染症の影響を受けない令和元年度の実績）と極端に少ない。このため、岩手町ではいわて沼宮内駅の利用促進が課題となっている。

かかる状況から、令和 4 年度、山本ゼミでは岩手町と連携し、いわて沼宮内駅の利用促進施策を検討した。検討の基本方針としては、大規模な観光振興や地域開発による入込数増加、駅利用者数増加を目指すのではなく、費用対効果を考慮したミクロ的施策に限定した。具体的には、①新幹線秘境駅としての PR、②新幹線鉄印帳・鉄印の導入、③駅施設見学ツアーの実施、④岩手町所縁の戦前のタカラジェンヌ園井恵子を核としたコンテンツツーリズムの展開、⑤駅構内の SNS 映えスポットの整備、⑥駅の歴史展示コーナー設置を提案した。

２．施策

（１）新幹線秘境号の運転

JR 東海飯田線には、小和田駅や金野駅など１日の利用者数が１桁の駅が複数存在している。これらの秘境駅を観光資源とし、観光客誘致を目的に、JR 東海では、平成 22 年度より観光列車「飯田線秘境駅号」を運行している。また、「飯田線秘境駅号」の運行にあわせて、地元では特産日の販売など様々な「おもてなし」が行われている。

これに準じて、全国の新幹線でもっとも乗降客数の少ない奥津軽いまべつ、木古内、いわて沼宮内の 3 駅を巡る臨時列車を運行する。これにより、上記 3 駅を PR する。

（２）新幹線鉄印帳・鉄印の導入

令和 2 年、全国の第三セクター鉄道等協議会に加盟する鉄道会社等が連携し、沿線地域の振興を目的に、「鉄印帳」の販売と「鉄印」の記帳を開始した。鉄印帳は、寺社や神社を巡り御朱印を記帳してもらう御朱印帳の鉄道版である。これにより、旅行ファンや鉄道ファンが、鉄印を集めるために全国の 3 セク鉄道を訪れることで、輸送人員増加が期待される。

新幹線においても、1 日の乗降客数が 2 ケタの 3 駅（奥津軽いまべつ、木古内、いわて沼宮内）で、鉄印帳同様のスタンプラリーを実施し、これによりこの 3 駅を周遊する観光客増加を図る。

（３）駅施設見学ツアーの実施

JR 東日本東北工事事務所では、操重車（クレーン車）への乗車と写真撮影、および青森営業統括センター青森駅検修庫の見学会「鉄道クレーン車との写真撮影会＆青森営業統括センター青森駅検修庫内の見学会 in 青森」を開催した。本イベントは、令和 4 年 5 月 28 日（土）に 3 回実施され、参加費用は 8,000 円（税込）で 23 人が参加した。これらイベントのように普段目にすることが難しい車両や施設を見学することができるイベントは、参加費が高額でも、一定の需要があるといえる。

いわて沼宮内駅においても、鉄道ファン向けに有料で新幹線の設備を見せる。いわて沼宮内駅の場合、列車は上下各 1 時間あたり 1 本と、ほとんどの時間帯に列車が運行されていないため、例えば名古屋駅では安全上不可能な施設見学ができることを PR ポイントとする。

（４）岩手町所縁のタカラジェンヌ園井恵子によるコンテンツツーリズムの展開

アニメや映画の舞台、所縁の地を訪れる「コンテンツツーリズム」（いわゆる「聖地巡礼」）が注目されている。岩手町では、同町所縁の戦前のタカラジェンヌ園井恵子の生涯を描いた映画／舞台の制作を検討中であるが、この完成時にコンテンツツーリズムを展開し、全国から「聖地巡礼」客の入込を図る。

このため、IGR いわて銀河鉄道の車両に園井恵子のラッピング、ロケ地ツアー、ガイドマップ作製、顔出し看板などを検討する。

（５）駅構内の SNS 映えスポット（フォトフレーム）の整備

フォトフレームは、一般に、美しい景観等を背景に「映える」写真の撮影できることがポイントである。いわて沼宮内駅周辺にも美しい自然景観は多いが、ここでは、他の地域では困難な、いわて沼宮内駅の特性を生かしたフォトフレームとして、新幹線を背景に撮影できるスポットの整備を提案する。

いわて沼宮内の新幹線ホームに、新幹線の先頭車をバックに記念撮影ができるスポットを整備する。ただし、上記のとおり、列車本数が少なく撮影チャンスが限られるため、AR（仮想現実）技術を用いて、例えば自分の乗車する列車を撮影可能なシステムを提供する。

（６）駅の歴史展示コーナー設置

半世紀前の東北本線全線電化以前、いわて沼宮内（当時は沼宮内）は、急こう配区間のための補助蒸気機関車の基地で、機関庫や転車台など多くの鉄道施設があった。

このため、いわて沼宮内駅に、この時代の鉄道にかかわる資料や写真、模型を展示するブースを設置する。これにより、鉄道ファンの関心を惹くとともに、地元の人々にとっても懐かしさを感じられるスペースとし、駅の利用促進に繋げたい。